

## < 研究会について >

本研究会の目的は、それぞれの理論に関する文献講読と公開研究会での意見交換を通して、研究会所属メンバーの博士論文執筆の切り口の発展、研究者としての活動の礎を築くことである。そのために本研究会では、以下4点の内容をおこなう。 読書会、 読書会で検討したテキストの著者や研究者を招いた公開研究会、 各メンバーの執筆原稿のブラッシュアップである。以上を通して、着実な研究環境の生成や成果発信の場として研究会を機能させていく。

本研究会が発足した2024年度では、フォーコー『ユートピア的身体／ヘテロトピア』、ハラウエイ『サイボーグ宣言』、カヴェル『眼に映る世界』の講読を進めてきた。その延長線上として、本年度はドゥルーズ『シネマ I・II』の講読を中心にする。同時に、前年度の文献と部分的にオーバーラップする形で「中心／脱中心」や「システム／バグ」を思考するために、ギョロウエイ『プロトコル』も講読予定である。上記の文献講読（月1回程度開催予定）に加え、各メンバーの原稿検討会（月1回開催予定）、公開研究会（2月開催予定）といった流れで本研究会を進行する。

# 空間・身体・時間・意識

## < 所属メンバー >

宮内 沙也佳（表象）<keyword>肥満表象、移動、過剰性</keyword>  
濱中 健太（表象）<keyword>ドゥルーズ、フランス現代思想</keyword>  
KIM Kyohyun（表象）<keyword>デジタル主権、インターネット</keyword>  
浦野 智佳（表象）<keyword>情動、メディア、SNS</keyword>  
徳永 怜（生命）<keyword>フォーコー、喜劇、法</keyword>  
立川 宗一郎（表象）<keyword>ブラコショ、変身、言語</keyword>  
加藤 このみ（共生）<keyword>受刑者、演劇</keyword>  
今井 友哉（生命）<keyword>ウィトゲンシュタイン、言語</keyword>  
水口 陽太（表象）<keyword>マルロ＝ポコティ、フィクション、他者</keyword>